

事務事業名		高齢者配食サービス事業					評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)	
政策体系	基本目標	2 やさしくふれあいのある健康福祉づくり					担当組織	担当部	健康医療部	担当課	いきいき高齢課
	政策	3 助け合い生きがいを実感できるまちづくり					担当係	高齢福祉係	担当課長名	片柳利幸	
	施策	1 豊かで健やかな長寿社会の実現					新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	2 自立支援サービスの推進					実施計画事業・一般事業		実施計画事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	4915	一般	3	1	3	高齢者配食サービス事業					
	事業区分						市単独事業・国県補助事業		市単独事業		
事業計画	単年度繰り返し		事業期間	平成14年度～ 年度		根拠法令 条例等	佐野市高齢者配食サービス事業実施要綱				
	事業区分						任意的事業・義務的事業		任意的事業		
	事業区分						実施方法		一部委託		
	事業区分						事業分類		現金・現物給付事業		
事業区分						リーディングプロジェクト		該当なし			
事業区分						市長マニフェスト		2-9			

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)										
事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)			平成26年度実績(平成26年度に行った主な活動内容)							
65歳以上の食事づくりが困難な高齢者に、栄養のバランスの取れた食事を週5食まで配達する。配達の際は必ず手渡しで弁当を配布することで、高齢者の見守り・安否確認にもつながる事業である。			食事づくりが困難な高齢者に栄養のバランスの取れた食事を届けた。届ける際には必ず手渡しで本人に弁当を渡すことにより、高齢者の見守りと安否確認を行っている。							
			活動指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)	
			利用者数	人	156	133	150	150	—	
			配食数	食	30,118	29,250	30,000	30,000	—	
② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)										
65歳以上のひとり暮らしまたは高齢者世帯で疾病等により食事づくりが困難な方。			対象指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)	
			一人暮らし高齢者数	人	3,982	4,213	4,444	4,675	—	
			高齢者世帯数	世帯	3,757	4,027	4,297	4,567	—	
目的										
③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)			成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)	
栄養のバランスのとれた食事が食べられるようになり、栄養改善が図れる。			配食数/利用者数	食	193	220	200	200	—	
④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)										
自立した在宅生活をしてもらう。			上位成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)	
			在宅福祉サービス利用者数	人	1,526	6,934	7,000	7,200	—	

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)			
	国庫支出金	千円								
	県支出金	千円								
	地方債	千円								
	その他	千円		34						
	一般財源	千円	9,036	5,816	4,800	3,200				
	事業費計(A)	千円	9,036	5,850	4,800	3,200	0			
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			事業委託料	9,036	事業委託料	5,850	事業委託料	4,800	事業委託料	3,200
	人件費	人	1	1	1	1				
のべ業務時間	時間	316	200	200	200					
人件費計(B)	千円	1,230	788	788	788	0				
トータルコスト(A)+(B)	千円	10,266	6,638	5,588	3,988	0				

事務事業名	高齢者配食サービス事業	担当部	健康医療部	担当課	いきいき高齢課	担当係	高齢福祉係
-------	-------------	-----	-------	-----	---------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成14年2月、県の補助制度に合わせ事業を開始した。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	平成17年度から介護保険制度改正に伴い県補助が廃止され一般財源化された。ひとり暮らし又は高齢者世帯は増加しており今後対象者が増加していくと考えられる。配食業者への委託費を、平成22年度から1食あたり350円から300円に、さらに平成26年度から1食あたり200円に減額した。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	山間地域の高齢者も十分にサービスが受けられるようにしてほしいという要望が市民・ケアマネジャーからあった。また合わせてサービス事業者の育成にも努めるよう、事業の外部評価委員から要望があった。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案	栄養のバランスのとれた食事を採ることにより栄養改善が図れるので健康になり、自立した在宅生活を送れるため意図は結果に結びつく。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案	疾病等により食事づくりが困難な高齢者に対し、栄養のバランスのとれた食事を提供することは健康で安心した生活を送れるとともに介護予防の推進を図る観点から妥当である。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案	この事業は、疾病等により食事づくりが困難な高齢者が栄養のバランスのとれた食事が食べられるようになり、栄養改善を図るため実施しているので対象と意図は合っている。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がない	理由・改善案	平成25年度から山間地域を含む市内全域に配達ができるようになったので、本事業を利用したい全ての市民のニーズに応えることができるようになり、サービスの向上が図られた。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案	類似事務事業名
	*類似事務事業があれば、名称を記入			
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案	平成26年度に、一食あたりの委託費を300円から200円に減額したので、事業費の削減が行えた。人件費については、必要最小限の人数で対応しており、削減余地はない。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？ 事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	現在の受益者負担は適正である	理由・改善案	平成26年度から委託料の減額に伴い利用者負担が増えたが、事業者によっては利用料金据置のところで、利用料金を引き下げたところがあった。利用者は好みにより事業者を選ぶことができるため、利用者が負担額を考慮して事業者を選ぶことにより、適正に受益者負担が行われている。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)			
	食事づくりが困難な高齢者の在宅での生活を支援するために栄養のバランスのとれた食事を提供することは、高齢者福祉に欠かせない事業であるとともに、高齢者の見守り・安否確認も行うことができる事業であり、休止・廃止することはできない。			

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
現状維持(従来通り実施)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。																								
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	<table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○	×																					
	低下		×	×																					